

幾何学概論第一 (MTH.B211)

空間曲線の基本定理

山田光太郎

kotaro@math.titech.ac.jp

<http://www.math.titech.ac.jp/~kotaro/class/2022/geom-1/>

東京工業大学理学院数学系

2022/11/17

常微分方程式

$J \subset \mathbb{R}$: 区間 ; $U \subset \mathbb{R}^n$: 領域 ; $\mathbf{f} : J \times U \rightarrow \mathbb{R}^n : C^\infty$

- ▶ 常微分方程式の初期値問題

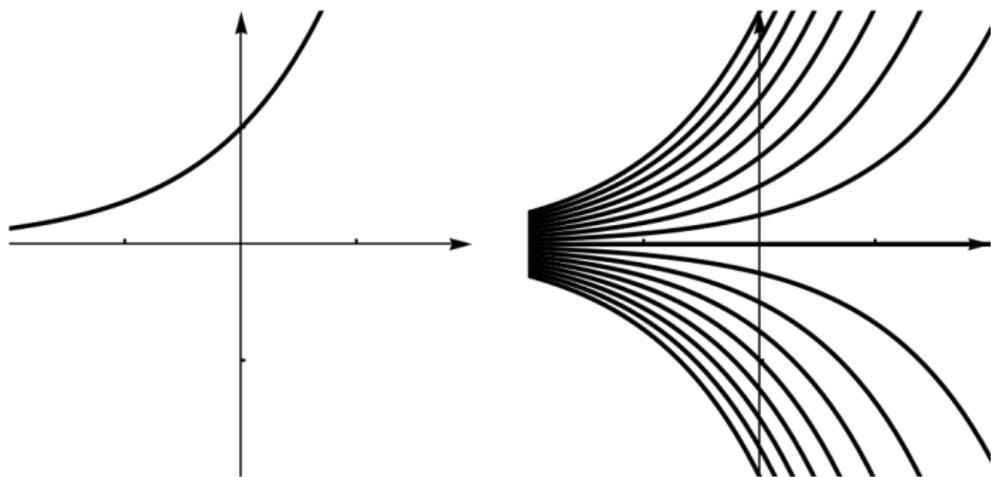
$$\frac{d\mathbf{y}}{dt} = \mathbf{f}(t; \mathbf{y}(t)), \quad \mathbf{y}(t_0) = \mathbf{a} \quad (t_0 \in J, \mathbf{a} \in U) \quad (*)$$

- ▶ 初期値問題 (*) の解 : (*) を満たす関数 $\mathbf{y} : J' \rightarrow \mathbb{R}^n$
- ▶ 線形常微分方程式 : $\mathbf{f} = \mathbf{f}(t, \mathbf{y})$ が \mathbf{y} について 1 次式.

常微分方程式；例 6.2 (1)

▶ $n = 1$, $J = \mathbb{R}$, $\mathbf{f}(t; y) = \alpha y$ (α は定数), $t_0 = 0$

$$\frac{dy}{dt} = \alpha y, \quad y(0) = a$$



常微分方程式；例 6.2 (2)；単振動

- ▶ $n = 2$, $J = \mathbb{R}$, $\mathbf{y} = {}^t(x, y)$, $\mathbf{f}(t; x, y) = {}^t(y, -k^2x)$ ($k > 0$ は定数), $t_0 = 0$, $\mathbf{a} = {}^t(a, b)$

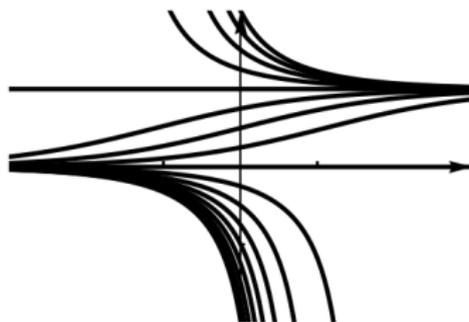
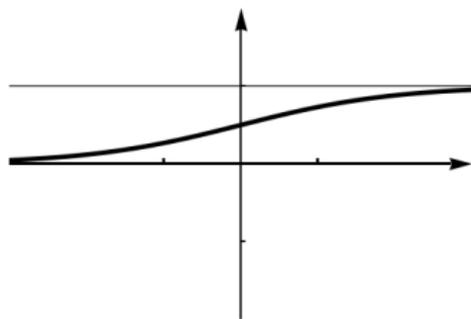
$$\frac{dx}{dt} = y, \quad \frac{dy}{dt} = -k^2x, \quad x(0) = a, \quad y(0) = b$$

常微分方程式；例 6.2 (3)；ロジスティック方程式

- ▶ $n = 1$, $J = \mathbb{R}$, $\mathbf{f}(t; y) = y(1 - y)$, $t_0 = 0$,

$$y' = y(1 - y), \quad y(0) = a$$

- ▶ 解： $y(t) = \frac{a}{a + (1 - a)e^{-t}}$



常微分方程式；例 6.2 (4)；SIR モデル

$$\begin{cases} \frac{dS}{dt} &= -\beta SI \\ \frac{dI}{dt} &= \beta SI - \gamma I \\ \frac{dR}{dt} &= \gamma I \end{cases}$$

常微分方程式の基本定理

$J \subset \mathbb{R}$: 区間 ; $U \subset \mathbb{R}^n$: 領域 ; $\mathbf{f} : J \times U \rightarrow \mathbb{R}^n : C^\infty$

$$\frac{d\mathbf{y}}{dt} = \mathbf{f}(t; \mathbf{y}(t)), \quad \mathbf{y}(t_0) = \mathbf{a} \quad (t_0 \in J, \mathbf{a} \in U) \quad (*)$$

定理 (常微分方程式の基本定理 ; 定理 6.1)

以上の状況で $\mathbf{f} : J \times U \rightarrow \mathbb{R}^n$ が C^∞ -級ならば, t_0 を含む十分小さい区間 $J' \subset J$ 上で定義された初期値問題 (*) の C^∞ -級の解がただ一つ存在する.

特に (*) が 線形常微分方程式 なら, 解は J 全体で定義された C^∞ -級関数 である.

空間曲線の基本定理

定理 (空間曲線の基本定理)

区間 $J \subset \mathbb{R}$ 上で定義された 2 つの C^∞ -級関数 κ, τ が与えられ、とくに $\kappa > 0$ が J 上で成り立っているとする。このとき、弧長によりパラメータづけられた C^∞ -級の空間曲線 $\gamma: J \rightarrow \mathbb{R}^3$ で、曲率、捩率がそれぞれ κ, τ となるものが存在する。

さらにそのような曲線は変換 $\gamma \mapsto A\gamma + \mathbf{a}$ ($A \in \text{SO}(3)$, $\mathbf{a} \in \mathbb{R}^3$) を除いて一意的である。

問題 6-1

問題

弧長によりパラメータ付けられた空間曲線 $\gamma(s)$ の曲率 κ と捩率 τ が, 正の値を持つ s の C^∞ -級関数 $\varphi(s)$ および定数 $\alpha \in [0, \pi/2)$ を用いて

$$\kappa(s) = (\cos \alpha)\varphi(s), \quad \tau(s) = (\sin \alpha)\varphi(s)$$

と表されているとする. このとき, γ のフルネ枠 $\mathcal{F} := (\mathbf{e}, \mathbf{n}, \mathbf{b})$ に対して

$$\mathbf{u} := (\sin \alpha)\mathbf{e} + (\cos \alpha)\mathbf{b}, \quad \mathbf{v} := (\cos \alpha)\mathbf{e} - (\sin \alpha)\mathbf{b}, \quad \mathbf{w} := \mathbf{n}$$

とにおいて $\mathcal{G} := (\mathbf{u}, \mathbf{v}, \mathbf{w})$ と書くことにする.

1. 各 s に対して $\mathcal{G}(s) \in \text{SO}(3)$ であることを確かめなさい.
2. $\mathcal{G}' = \mathcal{G}\Lambda$ を満たす行列 Λ を求めなさい.
3. $\gamma(s)$ を φ と α を用いて表しなさい.

問題 6-2

問題

\mathbb{R}^3 の部分集合

$$\Sigma := \{ {}^t(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 ; 2z - x^2 = 0 \} \cap \{ {}^t(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 ; x^4 + y^4 = 1 \}$$

は「なめらかな空間曲線」を与える．この曲線上の点 ${}^t(1, 0, 1/2)$ における曲率を求めなさい．